

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

1 教育理念と人材育成の目的

(1) 理学療法学専攻の教育理念

理学療法学専攻では、本学の建学の精神を基本として、豊かな人間性と高い倫理観、健全な社会性を持ち幅広い専門知識と技術を有し、対象者に対して適切な理学療法を実践できる能力、多職種と適切な連携をとることができ地域社会の貢献できる能力、データサイエンスを基盤とした科学的な根拠に基づいた物事を思考することができ、高度化した医療や様々な保健医療分野の課題に対応できる人材を育成することを教育理念とする。

(2) 理学療法学専攻の人材育成の目的

- ① 理学療法に関わる社会や時代の変化の本質が考究でき、豊かな人間性と高い倫理性、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることのできる能力を獲得する。
- ② 科学的根拠に基づいた専門知識と技術を有し、高齢者、障がいのあるおとなや子ども、がんなどの疾病のある人に対して実践的な理学療法を行える能力を獲得する。
- ③ 理学療法の展開や臨床判断に必要な問題探究心と問題解決能力を有し、科学的根拠に基づいた臨床実践を展開できる研究マインドを身につける。
- ④ 予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して、ヘルスケア分野やスポーツ分野、さらに働きがいを含めた産業分野などの幅広いリハビリテーション分野を担うことを身につける。
- ⑤ 多様化する地域社会の特性や、共生理念およびリハビリテーションに関連する多職種連携・協働チームの在り方を適切に理解し、健康課題の把握・解決に寄与できる、地域リハビリテーション分野の中核を担うことを身につける。
- ⑥ グローバル化および情報化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたって医療・リハビリテーションの質の向上について探究・研鑽できることを身につける。

2 3つのポリシー

(1) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

リハビリテーション学科理学療法学専攻は、本学に4年以上在学し、教養科目、専門基礎科目、専門科目から理学療法専攻が定める科目を履修し、計124単位以上を習得し、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（理学療法学）」の学位を授与します。

- ・理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている。（知識・技能）
- ・高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている。（知識・技能）
- ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。（知識・技能）
- ・予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。（知識・技能）
- ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。（関心・意欲・態度）
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度）
- ・幅広く教養を高める向上心を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。（関心・意欲・態度）
- ・科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）

(2) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・リハビリテーション学科理学療法学専攻は、理学療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。
- ・理学療法士国家試験受験資格を得ることができます。

① 教育内容

(知識・技能)

- ・理学療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」「理学療法基礎」の科目群を配置する。
- ・理学療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」の科目群を配置する。
- ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を育成するため、臨床実習の科目群、理学療法研究に関する科目、およびデータサイエンス・AI入門「数理・データサイエンス・AI実践」「統計の基礎」「医療統計学」「統計と社会調査法」を配置する。
- ・予防医療の観点から幅広いリハビリテーションを担うことができる能力を育成するため「リハビリテーション栄養学」「公衆衛生学」「スポーツ領域理学療法学実習」「トレーニング・コンディショニング理学療法学実習」を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・理学療法分野における課題を探求する能力を養うために、4年次研究(理学療法研究)につながる科目群(理学療法研究法、理学療法研究セミナー)を配置する。
- ・臨床場面や研究において対応できるコミュニケーション能力を育成するため、「臨床実習」の科目群、4年次研究(理学療法研究)を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・グローバル化に対応し国際的視野を育成するため、教養科目の外国語の科目群および研修を主体とした総合領域の科目群を配置する。
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる人材を養成するために「臨床実習Ⅱ(訪問・通所)」「医学概論」「チーム医療概論」「地域包括ケアシステム論」「地域理学療法学」を配置する。
- ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる力を養うために教養科目の他「医学概論」「終末期医療」、理学療法研究に関する科目を配置する。
- ・初年次教育科目である「総合教養講座」においてSDGsを学ぶことにより、大学における学修内容をSDGsの視点で考えることができる態度を養う。

② 教育方法

- ・先進的な研究成果の理解力、課題探求能力、論理的な問題解決能力を身につけるための科目群は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。
- ・問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育(アクティブラーニング)を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。
- ・知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。
- ・理学療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習は診療参加型の実習形式で行う。
- ・評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

③ 教育評価

- ・科目の特性に応じて、授業参加態度、小テスト、理解度確認テスト、レポート及び成果物の提出などシラバスに記載される到達目標の学修到達度を客観的に評価する。

(3) リハビリテーション学科の学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

求める学生像

リハビリテーション学科は、理学療法士ならびに作業療法士として高度な専門的知識・技術を有し、リハビリテーションチームの一員として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れます。

(知識・技能)

- ・リハビリテーションを学ぶために必要な基礎学力を持つ人

・様々な考え方を持つ他者と人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人
(思考・判断・表現)

- ・グローバルな視点を持ち、多様な生き方や考え方を理解できる人
- ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身につけている人
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人

(関心・意欲・態度)

- ・リハビリテーションに強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする人
- ・柔軟かつ誠実で周囲に配慮した行動ができる人
- ・医療や介護の現場における最先端のリハビリテーションに関わりたい人
- ・人間の構造・機能のメカニズムや、生活とその背景について、様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる人

3 教育課程の構成と概要

上述の目的を達成するために理学療法学専攻の教育課程は、①教養科目、②専門基礎科目、③専門科目から体系的に構成されている。

(1) 教養科目

教養科目は〈人間と文化〉、〈社会と制度〉、〈自然と科学〉、〈外国語〉、〈スポーツと健康〉、〈総合領域〉の6つの分野から構成される。〈自然と科学〉の分野においては、医療の技術革新に対応できる基本スキルを身につけるために「情報処理リテラシー」「数理・データサイエンス・AI入門」「数理・データサイエンス・AI実践」を配置する。〈人間と文化〉、〈社会と制度〉、〈スポーツと健康〉の分野においては、人間としての尊厳を倫理面のみならず、制度・経済、文化等多角的な視点から理解を深める。〈外国語〉ではグローバル化の進展に対応することができる医療人を育成するために「英語Ⅰ～Ⅲ」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を設置する。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は専門科目における知識や技術を習得するための基盤となるものであり、〈人体の構造と機能及び心身の発達〉、〈疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進〉、〈保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念〉〈理学療法基礎〉の4つの分野から構成される。

〈人体の構造と機能及び心身の発達〉では、人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、演習科目を多く配当することで基本的な解剖・生理学的知識の修得を図る。また、リハビリテーションに関わるテクノロジーについての最新の知見と臨床での適応について学習する機会として「リハビリテーション工学」を設けている。〈疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進〉では主要疾患の成因、病態、診断、治療法を理解する。さらに「リハビリテーション栄養学」を必修科目として設けることにより、食生活や栄養面との関連を理解する。〈保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念〉では、現代社会における社会保障の理念や意義を体系的に学ぶとともに、リハビリテーション概念を包括的に理解し、地域包括ケア及びチーム医療の基本的な考え方を理解する。

(3) 専門科目

専門科目は、理学療法士としての専門性を高めるために必要とされる〈基礎理学療法学〉、〈理学療法管理学〉、〈理学療法評価学〉、〈理学療法治療学〉、〈地域理学療法学〉、〈臨床実習〉の6つの分野から構成される。

〈基礎理学療法学〉では、理学療法の概要と基本を学ぶとともに、「理学療法研究セミナー」や「理学療法研究」では、科学的根拠に基づいた理学療法実践の方法論を学ぶとともに、リサーチ・マインドもった理学療法士を育成する。

〈理学療法管理学〉では、組織運営に関するマネジメント能力、理学療法倫理、理学療法教育についての理解を深める。

〈理学療法評価学〉では、理学療法の現場で必要とされる評価の意味、目的、内容、およびその技術を体系的に学ぶ。

〈理学療法治療学〉では各種疾患に対する理学療法の理論と実際を修得するとともにチーム医療の一員として医療に当たることの重要性を学習する。科目は物理療法、基礎運動療法、義肢装具、運動器障害、神経障害、内部障害、発達障害、日常生活活動の各専門領域科目がある。さらに最新の医学・医療・理学療法に関する知見と科学的なものの見方を養うために「理学療法総合セミナー」や「(徒手・スポーツ領域・トレー

ニング・コンディショニング) 理学療法学実習」を設置し、統合的な演習・実習を展開する。

〈地域理学療法学〉では、リハビリテーション治療の対象者を取り巻く制度・政策や生活環境、その地域における社会資源について修得し、地域社会に根ざした理学療法士としてのあり方を学ぶ。

〈臨床実習〉では医療従事者としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、理学療法の実践に必要な情報収集能力の修得、その統合と解釈の仕方、治療計画の立案、基本的な理学療法の実施ができるように教育する。

4 履修の方法

(1) 卒業要件

卒業には必修科目（教養科目 6 単位＋専門基礎科目の共通40単位＋専門基礎科目の理学療法基礎 2 単位＋専門科目の理学療法応用64単位＝112単位）および選択科目（教養科目 8 単位以上を含む12単位以上）の計 124単位以上の認定を必要とする。

卒業に必要な単位数

	教養科目	専門基礎科目 (共通及び理学療法基礎)	専門科目 (理学療法応用)
必修科目	6 単位	42単位	64単位
選択科目	12単位以上（教養科目 8 単位以上含む）		
卒業必要単位数合計	124単位以上		

(2) 進級要件

1) 1年生から2年生への進級要件

1年次に配当されている必修科目の全ておよび1年次に配当されている6単位以上の選択科目を認定されなければ原則として2年生へ進級することはできない。

2) 2年生から3年生への進級要件

2年次までに配当されている必修科目の全ておよび2年次までに配当されている11単位以上の選択科目を認定されなければ原則として3年生へ進級することはできない。

3) 3年生から4年生への進級要件

3年次までに配当されている必修科目の全ておよび3年次までに配当されている12単位以上の選択科目を認定されなければ4年生へ進級することはできない。

(3) 選択科目の履修方法

選択科目は教養科目32単位（グローバル・ラングエイジスタディ研修、グローバル・エクスペリエンス研修、グローバル・プラクティカル研修、海外・国内型体験型研修含む）、専門基礎科目4単位、専門科目2単位の合計38単位で構成されている。ただし年次によって選択科目の構成配分が定められているため計画的に履修することが必要である。1年次から2年次の進級要件は選択科目6単位以上となっているが、卒業に必要な単位数の12単位以上を履修するためには、選択科目が多く配分されている1年次（特に教養科目）に必要な単位数を修得することを勧める。

選択科目の年次配分表

	教養科目	専門基礎科目	専門科目	計
1年次	18科目	2科目	1科目	21科目
	27単位	2単位	1単位	30単位
2年次	2科目	1科目		3科目
	3単位	2単位		5単位
3年次			1科目	1科目
			1単位	1単位
4年次				
全学年 グローバル・ラングエイジスタディ研修、海外・国内型体験型研修	4科目			4科目
	6単位			6単位
選択科目 単位 計	24科目	3科目	2科目	29科目
	36単位	4単位	2単位	42単位

推奨する選択科目

	前期	後期
1年生	文章表現 心理学概論 現代医療と福祉・介護 情報処理リテラシー 生命科学 物理学 生涯スポーツ I 公衆衛生学 終末期医療 トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	生活と社会環境 統計の基礎 英語 II 数理・データサイエンス・AI実践 食生活論 生涯スポーツ II
2年生	精神医学 II	
3年生		スポーツ領域理学療法学実習
4年生		

5 臨床実習について

臨床実習では、病院等の医療機関（実習施設）において、実際の治療場に携わっている理学療法士（臨床実習指導者）から必要な知識、技術指導等を受ける。具体的には各学生は下表の5科目を4年間に最低5ヶ所の実習施設で計20単位履修する。この実習は必修科目であり、理学療法士の国家試験を受験するにあたって必要な単位である。

臨床実習の年次表

授業科目	単位数（必修）	配当年次および学期	実習期間
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1	1年・後期	1週間
臨床実習Ⅱ（訪問・通所）	1	2年・後期	1週間
臨床実習Ⅲ（検査測定評価）	6	3年・後期	6週間
臨床実習Ⅳ（総合Ⅰ）	6	4年・前期	6週間
臨床実習Ⅴ（総合Ⅱ）	6	4年・前期	6週間

(1) 臨床実習履修要件

- 1) 臨床実習Ⅲを履修するにあたっては、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、理学療法評価学ⅠおよびⅡ、理学療法評価学実習ⅠおよびⅡが修得または修得が見込まれていること
- 2) 臨床実習Ⅳを履修するにあたっては、3年次までの必修科目がすべて修得または修得が見込まれていること
- 3) 臨床実習Ⅴを履修するにあたっては、臨床実習Ⅳ修得が見込まれていること

(2) 臨床実習（専門科目）の位置づけ

臨床実習は、各配当年次における専門科目等の知識および技術を修得した上で医療機関等の学外施設で学ぶことになる。したがって、学内授業における他の必修科目と異なり、臨床実習指導者からの評価がある。評価の対象は、理学療法の知識および技術のみではなく、理学療法士の資質としての広い社会性なども含まれる。

6 取得可能な資格

理学療法士国家試験受験資格

リハビリテーション学科 理学療法専攻 開設授業科目一覧
教養科目

分野	科目	区分	単位	配当年次 及び学期		卒業 必修	備考
人間と文化	文章表現	講	2	1	前		
	心理学概論	講	2	1	前		
	食生活論	講	2	1	後		
	生活と社会環境	講	2	1	後		
	総合教養講座	講	2	1	前	必修	
社会と制度	日本国憲法	講	2	1	後		
	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前		
	キャリア入門	講	1	1	前	必修	
	キャリア形成	講	1	2	後	必修	
自然と科学	生命科学	講	2	1	前		
	情報処理リテラシー	講	1	1	前		
	統計の基礎	講	2	1	後		
	数理・データサイエンス・AI入門	講	1	1	後	必修	
	数理・データサイエンス・AI実践	講	1	1	後		
	物理学	講	2	1	前		
	基礎化学	講	2	2	前		
外国語	英語Ⅰ	演	1	1	前	必修	
	英語Ⅱ	演	1	1	後		
	英語Ⅲ	演	1	2	前		
	中国語Ⅰ	演	1	1	前		
	中国語Ⅱ	演	1	1	後		
	韓国語Ⅰ	演	1	1	前		
	韓国語Ⅱ	演	1	1	後		
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	演	1	1	前		
	生涯スポーツⅡ	演	1	1	後		
総合領域	グローバル・ラングエイジ スタディ研修	演	1	—	—		
	グローバル・エクスペリエンス研修	演	2	—	—		
	グローバル・プラクティカル研修	演	1	—	—		
	海外・国内体験型研修	演	2	—	—		

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位	配当年次 及び学期		卒業 必修	備考
人体の構造と機能及び 心身の発達	人間発達学	講	2	1	前	必修	
	解剖学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	解剖学Ⅱ	演	1	1	後	必修	
	生理学Ⅰ	講	1	1	前	必修	
	生理学Ⅱ	講	1	1	前	必修	
	生理学Ⅲ	演	1	1	後	必修	
	生理学演習	演	1	2	前	必修	
	運動学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	運動学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	運動学実習	実	1	2	後	必修	
	リハビリテーション工学	講	1	3	後	必修	
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	講	2	1	後	必修	
	微生物・免疫学	講	1	1	前	必修	
	終末期医療	講	1	1	前		
	内科学	講	2	2	前	必修	
	整形外科学	講	2	2	前	必修	
	脳神経内科学	講	2	2	後	必修	
	小児科学	講	1	2	前	必修	
	精神医学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	リハビリテーション医学	講	1	1	後	必修	
	老年医学	講	1	2	後	必修	
	臨床心理学	講	1	2	前	必修	
	リハビリテーション栄養学	講	1	2	前	必修	
	臨床薬理学	講	1	3	後	必修	
	救急医学	講	1	3	後	必修	
言語障害治療学	講	1	2	後	必修		
保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	医学概論	講	1	1	前	必修	
	リハビリテーション概論	講	1	1	前	必修	
	公衆衛生学	講	1	1	前		
	地域包括ケアシステム論	講	1	2	後	必修	
	統計と社会調査法	講	2	3	後	必修	
	チーム医療概論	講	1	3	後	必修	
理学療法基礎	応用解剖学演習	演	2	2	前	必修	
	精神医学Ⅱ（理学療法）	講	2	2	前		

専門科目

分野	科目	区分	単位	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	講	1	1	前	必修	
	理学療法概論Ⅱ	講	1	1	前	必修	
	運動生理学	演	1	2	後	必修	
	病態運動学	講	1	2	後	必修	
	基礎解剖学実習	実	1	1	後	必修	
	理学療法研究法	講	1	3	後	必修	
	理学療法研究セミナー	演	1	3	後	必修	
	理学療法研究	演	2	4	後	必修	
	医療統計学	講	1	3	前	必修	
理学療法管理学	理学療法管理経営学Ⅰ	講	1	3	前	必修	
	理学療法管理経営学Ⅱ	講	1	3	前	必修	
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	講	1	1	後	必修	
	理学療法評価学Ⅱ	講	1	2	前	必修	
	理学療法評価学Ⅲ	講	1	3	後	必修	
	理学療法評価学実習Ⅰ	実	1	2	前	必修	
	理学療法評価学実習Ⅱ	実	1	2	後	必修	
	高次脳機能障害学	講	1	3	前	必修	
理学療法治療学	物理療法学Ⅰ	講	1	2	後	必修	
	物理療法学Ⅱ	講	1	2	後	必修	
	物理療法学演習	演	1	3	前	必修	
	基礎運動療法学	講	1	3	前	必修	
	義肢装具学Ⅰ	講	1	3	前	必修	
	義肢装具学Ⅱ	講	1	3	前	必修	
	義肢装具学演習	演	1	3	後	必修	
	運動器障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	運動器障害理学療法学演習	演	1	3	前	必修	
	神経障害理学療法学Ⅰ	講	1	3	前	必修	
	神経障害理学療法学Ⅱ	講	1	3	前	必修	
	神経障害理学療法学演習	演	1	3	後	必修	
	内部障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	内部障害理学療法学演習	演	1	3	後	必修	
	子どもの理学療法学Ⅰ	講	1	3	前	必修	
	子どもの理学療法学Ⅱ	講	1	3	前	必修	
	子どもの理学療法学演習	演	1	3	後	必修	
	日常生活活動学	講	1	2	後	必修	
	日常生活活動学演習	演	1	3	前	必修	
	理学療法総合セミナー	演	1	4	後	必修	
	徒手理学療法学実習	実	1	3	前	必修	
	スポーツ領域理学療法学実習	実	1	3	後		
	トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	実	1	1	後		
地域理学療法学	高齢者理学療法学	講	1	3	前	必修	
	地域理学療法学	講	1	3	前	必修	
	地域理学療法学演習	演	1	3	後	必修	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	実	1	1	後	必修	
	臨床実習Ⅱ（訪問・通所）	実	1	2	後	必修	
	臨床実習Ⅲ（検査測定評価）	実	6	3	後	必修	
	臨床実習Ⅳ（総合Ⅰ）	実	6	4	前	必修	
	臨床実習Ⅴ（総合Ⅱ）	実	6	4	前	必修	